

■「きんきゃん」のコンセプト

子どもの「やってみたい」という気持ちを大切に！

あくまで子ども主体で実践することで、子どものなかから、大人の枠にとらわれない、自由で魅力的な遊びが生まれてくる。いつもきんきゃんが開いている「安心感」に絶妙に組み合わせる「サプライズ」は、まさにこのコンセプトがあってこそ！

まちのなかで子どもたちが遊ぶ！〈まちを遊ぶ〉

子どもたちが商店街（まち）のなかで遊ぶことで、子どもたちはさまざまな大人と出会い、関わりをもつことができる。子どもたちはそんな大人たちと関わりながら、まちで遊ぶだけでなく、まちを遊ぶ（まち自体が遊び場であり、遊びの対象である）ようになる！

■「きんきゃん」のスタッフ（2007.03 現在）

きんきゃんは、大学生・大学院生のスタッフで運営しています。毎日2～3人のスタッフが常駐しています。



やましーたけ
（山下智也）



ねこちゃん
（鬼塚史織）



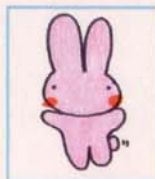
ぼんだ
（原田義也）



いっくゅー
（山本一成）



どーなつ
（光安輝高）



みーちゃん
（吉田明日香）



ひでよ(のり)
（野口真範）

他にも
大学生が
たくさん
遊びに
来るよ！

時間

日にち：平日

時間：小学校の放課後、2時間程度

場所

住所：812-0053 福岡市東区箱崎 1-32-31

■きんしゃいきゃんばす周辺地図■



アクセス：地下鉄「箱崎宮前」駅から徒歩7分
JR 箱崎駅から徒歩 5分

連絡先

代表：山下 智也（やましたともなり）

電話：090-8992-9449

E-mail：tomonari_sf@jcom.home.ne.jp

気軽にお問い合わせください★



子どもの遊び場

きんしゃい きゃんばす



★ きんきゃん の 見どころ ★

1 子どもの創造的な遊び



積み木や本でピタゴラスイッチ 水溜りで思いっきり遊ぶ

■子どもたちは自由な発想で遊びを展開します。「やってみよう」という思いを後押しすることで、そこに魅力的な遊びが創造されるのです。

2 異学年交流



砂場のまちづくり(小3～中1) 路上ボーリングを取り囲む

■おもしろい遊びが起こっていると、子どもたちは自然に集まり、一緒に遊び出します。ある男の子が、「ここに来ると、誰かと遊べる!」と言っていました。学校とは一味違う、異学年交流が生まれています。

きんきゃんの歴史(その1) ～きんきゃんの誕生

「きんしゃいきゃんばす」は、2004年7月10日に誕生!
箱崎商店連合会・管崎まちづくり放談会・九州大学南博文教授の三者の話し合いのなかで、大学を地域に開こうという目的のもと、商店街の空き店舗を研究室として活用することになったのだよ。



きんきゃんの歴史(その2) ～子どもの遊び場・立ち寄り場へ

「せっかく商店街にいるんだから」ということで、研究室メンバーでかき氷屋をはじめちゃうと、子どもたちがたくさんやってきた! その都度子どもたちと遊んでいると、かき氷屋が終わっても、子どもたちは遊びにやってくるんだよね。次第に、子どもの遊び場・立ち寄り場「きんしゃいきゃんばす」となっていくちゃった★



3 子どもたちの居場所



きんきゃんを段ボールで広げる お手伝いクラブの誕生!

■「学校だとしゃべらんけど、ここだとめっちゃしゃべるんやね」と驚かれた男の子がいました。また、居場所感の高まりから、子どもたちのクラブが生まれ、きんきゃんの運営にも関わる子どもも出てきました。

4 遊び場の広がり



体を使った遊び@近くの公園 まち探検スタート!

■きんきゃんを拠点として、子どもたちは路上、商店街、公園、さらにはまちへと遊び場を広げていきます。遊び場が広がることで、遊びのバリエーションも増えていきました。

5 九大探検! ～大学を遊ぼう!



九大で段ボール基地作り 巨大な図書館を探検中!

■大学だって、同じ箱崎のまち!九州大学を遊び場に、専門性や広い敷地を活かしたイベントを開催しました。毎年100名を超える参加者があり、大学と地域とを結びつけるきっかけともなっています。

6 地域行事への参加



伝統行事「人形飾り」への参加 地域の夏祭りへ出店(出張きんきゃん)

■伝統行事「人形飾り」をはじめ、夏祭りへの出店、地域の運動会、餅つき大会、凧揚げ大会などの地域行事を通して、子どもたちとともに「地域」を体験してきました。次第に地域との接点も増えてきています。

きんきゃんの歴史(その3) ～移転の危機を乗り越えて

2005年以降、子どもたちと一緒に毎日を過ごしてきたんだけど、2006年10月末に「きんしゃいきゃんばす」の建物が取り壊されることになった!

そんなピンチの中で子どもたちと相談しながら、きんきゃんをこれからも続けていくことを改めて確認。幸運にも、別の空き店舗に移転することが可能となったので、2006年11月から「きんしゃいきゃんばす2」として再スタートを切ったんだ。子どもたちと築き上げていく「きんきゃん2」。これからも子どもたちとともに、成長していきたいっけー。



旧きんきゃん



きんきゃん2

7 地域の大人との関わり



亀の育て方を教えてもらう 商店街のおばあちゃんに取材!

■商店街で子どもたちが遊んでいると、地域の大人が話しかけたり、遊びを教えてくださいました。毎日顔を合わす店主の方々とは、子どもたちが自発的に取材に訪れたり、関係性も深まっています。

8 コミュニティスペース



きんきゃん前で立ち話 子どもを見守る地域の大人たち

■きんきゃんが地域に根付いてくると、保護者の方がきんきゃん前で立ち話をしたり、地域の方が立ち寄り子どもたちの様子を見守ったりと、次第にコミュニティスペースとしての様相を見せてきました。

